

| | | |
|------|------------------------|-----------|
| No.5 | 提 案 名：外国人と共生する豊かなまちづくり | |
| | 提案団体名：宇都宮大学 まちづくり隊 | |
| | 所 属：宇都宮大学 地域デザイン科学部 | |
| | 代 表 者：笠原花華 | 指導教員：中村祐司 |
| メンバー | 笠原花華 渡部葵 時佳鋭 | |

○ 提案の要旨

外国人との共生が進められているが、暮らしの中にはバリアが存在していることが考えられる。このことから、宇都宮に住む外国人の暮らしにおける不安の解消や平等への促進等を行う取り組みが必要であると考えた。私たちは「性別・年齢・国籍に関わらず多くの人に関わりあい、全ての人にとって生活しやすい地域」をにぎわいがあり魅力的なまちであると考え。そこで、問題を解決し宇都宮をより魅力的なまちとする取り組みとして「外国人と共生する豊かなまちづくり」の提案を行う。提案を行うにあたり、宇都宮市の外国人人口を他都市との比較することで客観的に把握した。次に、日本語を学ぶ外国人に対し自作の意識調査を行った。さらに、宇都宮市の既存の交流場所に訪問し、どのような取り組みしているかを調査、比較考察を行なった。これらの調査をもとに外国人の抱えるバリアやニーズを把握し、「食まちフェス in 宇都宮」を提案する。

1. 提案の背景・目的

近年、日本が多文化多様性社会になるにつれて、宇都宮でも外国人留学生や外国人労働者等の数が増加し、生活の中で外国人住民と接する機会が増えている。そのため、地域における多文化共生推進の必要性を感じており、世代や国籍を問わず誰もが暮らしやすいまちづくりが求められていると考える。また、これまでは地域社会の中で多数を占めている人に合わせて社会がつくられてきたと考えられることから、外国人にとって暮らしの障壁となるような「バリア」が作り出されている可能性がある。例えば、日本語のみで表示されていることによりあらゆる情報を得ることが困難であること、日本語以外で診療を受けられる病院が少ないこと、さらには日本人による外国人への偏見など、外国人にとっての困りごとが数多く存在していることが考えられる。このような背景から、私たちは、宇都宮で暮らす外国人の生活における不安の解消、平等への促進、差別化および誤解を解消できる取り組みが必要だと考え、今回の提案に至った。

また、今回の提案は、宇都宮で暮らす上での不安や差別を解消し外国人が輝ける場所をつくることで、全ての人にとって住みよいまちをつくることだけでなく、外国人がローカルな社会に溶け込み、さらには、宇都宮に関わる外国人も地域づくりの担い手であるという当事者意識を醸成することを目的とする。

外国人と共生していくためには、社会を共につくる一員として外国人が包括され、様々な背景を持つ全ての人々が社会に参加すること、そして社会をつくる全ての人がお互いを理解し合い差別や偏見をなくすことが必要不可欠である。今回私たちが提案する交流拠点が、出身地関係なく誰もが暮らしやすいまちの実現につながる取り組みとしての役割を果たせれば良いと考えている。

2. 提案の目標・課題「私たちから始めよう にぎわいアクション」との関連

まず、私たちが考えるにぎわいや魅力のあるまちのイメージは、世代や国籍を問わず多様な人たちが関わりながら生活しており、買い物しやすい生活に関する情報が手に入りやすいか

ったりなど生活の利便性が高く、全員が主体的に活動できるまちだ。これは、外国人を含めた宇都宮に住む全ての人にとって達成されなければにぎわいや魅力のあるまちとは言えないだろう。

また、私たちは「私たちから始めよう にぎわいアクション」の活動の一貫として、宇都宮で暮らす外国人が生活の中でどのようなことに困っているのかなどを問うアンケート調査を実施した後、彼らの生活において何が障壁となっているのかを分析し、その問題を解決するためにどのような取り組みが必要かを考えた。そして、最終的に外国人が主体性をもって地域づくりに関わることを目指した。このような私たちの活動は、宇都宮の現状や問題を認識し、宇都宮に住む全員が主役となりより良いまちを目指す活動であり、年齢・出身等関係なく誰もが暮らしやすいまちの実現につながる。さらに、私たちがにぎわいや魅力のあるまちづくりのイメージとして考えている、世代や国籍を問わず多様な人たちが関わりあい誰にとっても生活しやすい地域づくりにつながっていく。

3. 現状分析

3.1 宇都宮市在住の外国人、留学生数の変遷

(1) 宇都宮市の外国人人口の推移とその比較

ここでは宇都宮市の住民基本台帳に基づく外国人数の推移と、宇都宮市と人口規模が似ている2市と外国人人口を比較し、宇都宮市の外国人数を客観的に捉えることを目的とする。

宇都宮市の外国人人口は2022年10月時点で9,678人¹⁾である。令和20・2021年に減少しているものの、13年前(平成21年)の8,254人、9年前(平成25年)の7,121人と比較してもその数が増加していることが分かる²⁾(図1)。また、令和20・2021年の減少は新型コロナウイルスの影響と考えられる為、今後も外国人人口は増加していくことが予測できる。

宇都宮市と人口に近い兵庫県姫路市と愛媛県松山市を比較対象とする。表2は宇都宮市を基準とした2市との県内外国人数と市内外国人数の変化率を示したものである(表1より算出)。まず、姫路市との比較を見ると、県内外国人数の変化率が168.6%と高いのに対し市内外国人数の変化率は25.3%にとどまっている。次に松山市との比較では、県内外国人数変化率の73.2%より、市内外国人数変化率の60.8%の方が小さいことが読み取れる。このことから、県内の外国人人口の差に比べ、市内の外国人人口の差が小さいことが分かり、宇都宮市は人口規模や県内外国人数の割に外国人数が比較的多いということが言えるだろう。

また、表2より宇都宮市の県内シェア率(市外国人数÷県内外国人数)は23.2%であり、栃木県の外国人約4分の1が宇都宮市にいたことが分かる。他市と比較すると、外国人数が少ない県ほど県内シェア率が高いことが読み取れる。栃木県宇都宮市、愛媛県松山市は県庁所在地であり県の中心地で外国人が集まるのに対し、兵庫県姫路市は県庁所在地ではなく神戸市などの市に外国人人口が分散されている事が予測される。

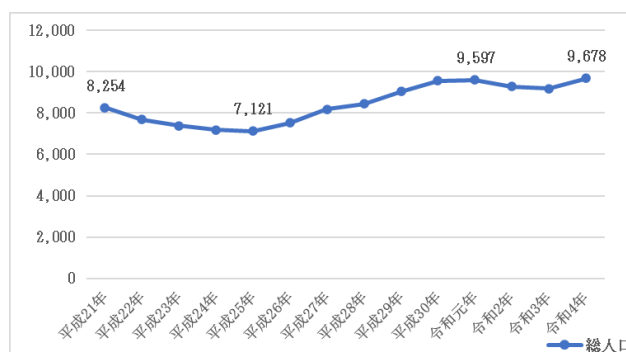


図1 宇都宮市10月末外国人数推移 筆者作成

表1 宇都宮市と人口に近い市の外国人人口と県内シェア率の比較 筆者作成^{3) 4) 5) 6) 7)}

| 市町村名 | 市総人口 | 県内外国人数 | 市内外国人数 | 県内シェア率 |
|-----------|---------|---------|--------|--------|
| 姫路市(兵庫県) | 529,040 | 111,940 | 12,128 | 10.8% |
| 宇都宮市(栃木県) | 517,751 | 41,670 | 9,678 | 23.2% |
| 松山市(愛媛県) | 505,874 | 11,159 | 3,793 | 34.0% |

表2 宇都宮市を基準とした外国人数変化率の比較 筆者作成

| 宇都宮市を基準とした 姫路市と宇都宮市の | | 宇都宮市を基準とした 松山市と宇都宮市の | |
|-------------------------|---------------|-------------------------|---------------|
| 県内外国人数 変化率 | 市内外国人数 変化率 | 県内外国人数 変化率 | 市内外国人数 変化率 |
| 168.6% | 25.3% | ▲73.2% | ▲60.8% |

3.2 日本語を学ぶ外国人への意識調査

(1) アンケート調査の概要と目的

宇都宮に住む外国人の生活におけるバリアやニーズを把握し、提案の方向性を定める為の意識調査を実施した。対象を日本語を学ぶ外国人としたのは、研究室の留学生とその留学生の友人が身近に存在したからである。アンケートでは、「どのような情報やサービスを必要・欲しいと感じるか」「生活(学校)の中で孤独を感じることはあるか」「友達とよく行く場所や好きな場所はどこか」「国籍問わず交流できる場所があったら何をしたいか」、さらに宇都宮市への愛着度の段階など17項目について質問をした。有効回答は18件、年齢層は20代~50代と幅広いが、その中でも20代の意見を多く得ることができた。以下、結果のポイントを示し、考察を加える。

調査年月:2022年10月3日~10月17日
 調査対象:宇都宮で日本語を学ぶ外国人
 調査方法:アンケート用紙に直接記入

(2) 調査結果と考察

経済面で困ったことがないと回答したのは3人で、それ以外の15人は生活費・学費・仕送りが少ないこと等の経済面で困っていることがあることが分かった。

生活の中で孤独を感じるかについて、「ある」との回答は3件だが、「ある」と回答した人は日本人と話す機会や友達を作る場所が欲しいと記述している。

友達とよく行く場所、好きな場所については、公園・喫茶店・ベルモール・遊園地・駅前の飲食店・中国人が経営する店など、人が集まりやすい場所やゆったりと会話ができる場所が多くあげられた。

「国籍問わず交流ができる場所があったら何をしたいか」という質問に対しては、「働きたい」「遊びたい」「ゲームをしたい」「運動したい」「日本文化を共有したい」「食事をしながら話したい」など、様々な視点の回答があった。中でも働きたいと回答した人が3人いたのが予想外の結果であった。

宇都宮市の愛着度については、「ある」「どちらかと言えばある」「どちらかと言えばない」「ない」の4段階から選択をしてもらう形式で質問をした。あると回答した人は3人、どちらかと言えばあるが8人、どちらかと言えばないが0人、ないが7人という結果になった。回答者は宇都宮大学か宇都宮市の日本語学校に通う人であるため、宇都宮に愛着がない人の7という数値は多いのではないかと捉えた。

全体を通じて、経済面で困っていることがある人と働きたいと考えている人が多いこと、日本人や外国人同士での交流に対して一定の需要があること、宇都宮で日本語を学ぶ外国人の宇都宮市への愛着度は低いということが分かった。

3.3 既存の交流場所

(1) 宇都宮市国際交流プラザ

国際交流プラザは誰でも自由に利用できる施設で、取り組んでいる事業は主に4つに分けられており、事業については現地で職員から聞いた話とパンフレットなどの資料内容をもとに説明する。

1つ目は、外国人のための総合相談である。この事業では、相談員による総合相談を日本語、英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語、タイ語、ベトナム語で行っている。その他に、多言語で通訳や翻訳ができるタブレットを使った相談も受け付けている。また、職員によると生活に関する困りごとだけではなく、大学に通う留学生のレポート添削など勉強面でのサポートも行っているという。このように、日本語だけではなく様々な言語で相談可能にすることで、日本語が話せなくてもどの国籍の人も気軽に相談しやすく、さらに満足度が高いアドバイスをもらうことができる。

2つ目は、生活に役立つ情報提供である。写真1、2で示しているように、国際交流プラザ内や入り口付近に市内のイベント情報やコロナワクチンの情報など生活に役立つパンフレットが置かれている。さらに、パンフレットは日本語で書かれているものだけではなく、英語や中国語など他の言語でも書かれていた。日本語が分からない場合は日本語表記のみのものから情報を得ることが困難であり、生活に必要な情報が届かないということが考えられる。そのため、情報を提供するのに日本語だけでは限界があり、日本語を理解していなくても情報を得られるようにすることが必要である。そのような中で、このように多言語で書かれたパンフレット等があることは、外国人が情報を得るのにかなり役立つと感じ、日本語が分からないことで生活に関する情報を得られないといったことを防ぐ取り組みができていると考える。

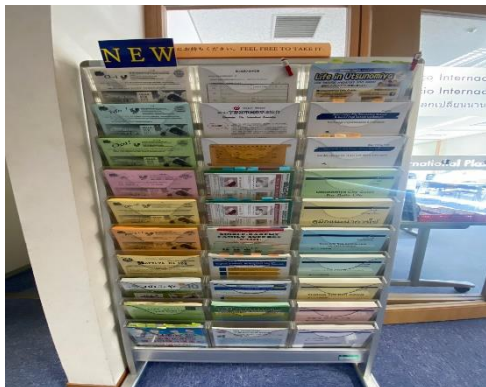


写真1 国際交流プラザ入り口付近
2022年10月20日 筆者撮影



写真2 国際交流プラザ内のチラシ
2022年10月20日 筆者撮影

3つ目は、外国人のための日本語教室である。教室では、初級から上級まで様々なレベルに応じ、少人数のグループに分かれて勉強している。日本語レベルに合わせて学習できることで、自分の日本語力に合った学習ができ、また、少人数のグループに分かれて行うことで生徒一人一人に対応しやすくなっている。

また、ボランティアとして外国人に日本語を教えたいという人のために、日本語ボランティア養成講座というものを行っている。講座では、日本語教室で使用するテキストを用いながら日本語の教授法を学び、講座を修了した方は、日本語教室でボランティア講師として外国人に日本語を教えていくことになる⁸⁾。このような日本語を教える人のための講座もあることで、日本語をしっかりと整理して教える方法を身に付けることができるため、外国人が理解しやすいように日本語を教えることができ、外国人にとっても質の高い学習ができるのではないだろうか。

4つ目は、国際交流イベントである。国際交流プラザでは毎月第4土曜日に国際交流サロンというイベントを行っている。これは、世界の様々な国の人たちが出会い楽しく交流できることを

目的としたものであり、ゲームをしたり気軽に話し合ったりすることができる。また、参加するにあたり予約や参加費は不要で、誰でも自由に参加できるものとなっている。土曜日にイベントを開催することで、学校や仕事に関係なく誰でも参加しやすく、より多くの日本人と外国人が交流できるのではないだろうか。また、一緒に何かに取り組むことでコミュニケーションをとる機会も増え、お互いを知ることにつながると考える。

(2) 宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター

本センターは、年齢やジェンダー、宗教や言語、職業、国籍などを問わず、多様な人々が自由に議論し合意形成を行うことを目的としており、様々な国際的な課題に対してお互いの知識を共有し合う拠点になっている⁹⁾。行われている事業としては、学生や市民団体等に地球規模の課題解決や国際協力・国際交流等の事業への参加支援や、自治体・国際交流団体・市民団体(NGO/NPO)と外国人コミュニティとの交流や国際協力・多文化交流・貢献活動などの分野での相談・協力などがある。学生だけでなく多様な人たちが一緒になって国際的な課題を対処する力を身に付けていくということで、非常に活動の規模が大きい。

また、センターの入り口にはチラシやパンフレットが置いてあり、日本語教室に関するものや自治体で行われるイベントに関するものなどが見られ、生活に役立つ情報発信も行っていることが分かった。

国際交流プラザで行われている交流事業と比較すると、国際交流プラザのように国籍が異なる人が集まって気軽に話したりゲームしたりするわけではなく、国籍が異なる人同士でお互いの知識を共有しながら意見交換をするということがメインであることから交流事業に違いが見られる。

(3) バンバ市民広場

これは二荒山神社のお膝元に位置する広場であり、毎年「フェスタmy宇都宮国際交流ひろば」の開催場所の一つとして利用されている¹⁰⁾。このイベントでは、世界文化の紹介や世界各国の料理・民芸品等を販売するブースの出展のほか、ステージでは日本伝統芸能や世界の音楽・ダンスなどのパフォーマンスが披露される。一度に様々な世界の伝統文化や音楽に触れることができる機会はかなり貴重であり、これまで馴染みのなかった文化への関心が生まれ、多様な文化への理解が一気に深まる。また、日本の伝統芸能の披露も行っていることにより在住外国人が日本文化に触れる機会にもなっていて、交流を楽しみながら日本人と外国人の相互理解を促進させることにつながっている。

4. 施策事業の提案

4.1 提案内容

○事業名：食まちフェス in 宇都宮

食と遊びをテーマにしたフェスを以下の目的を達成する為に実施する。

○食まちフェス in 宇都宮の目的

- ・外国人同士、日本人と外国人の交流の場を創造
- ・市民の宇都宮への愛着度向上
- ・地域づくりの担い手精神の育成
- ・外国人に対する半継続的な雇用創出

3.2 において行った日本語を学ぶ外国人への意識調査にて見つかった課題と、交流をするにあたってのニーズを踏まえ、「外国人と共生する豊かなまちづくり」として「食まちフェス in 宇都宮」を提案する。

食まちフェス in 宇都宮の実施準備にあたって、食まちフェス in 宇都宮実行委員会の実行委員を募集する。当日の運営や設営準備だけでなく、事前に10回前後集まり、イベント内で行う企画

作成やPR活動等を行う。構成は宇都宮市の職員の他、宇都宮市民や宇都宮市内の学校に通う学生約20名。募集する実行委員のうち10名を外国人枠での募集とする。当日は実行委員の他に運営のスタッフをボランティアで募集する。

フェスの内容や企画は下記のように想定しているが、食と遊びというテーマから逸脱しない内容であれば、話し合いで出たアイデアをフェスで実現することを実行委員会の目的の1つとする。装飾やPRの方法を工夫するやコーナーやスペースの名前を決めるなど、大きな企画でなくても良い。その他の目的として、国籍の異なる人と合意形成をしていく過程や、1つの目標に向かい協力し何かを成し遂げる経験を通じて、偏見をなくしたり互いが外国人と交流する事のハードルを下げたりすること。宇都宮市の一員としての自覚を養成し、自分もまちづくりの担い手になれるということを知ってもらうことがある。また、この実行委員会にはメンバーを最終的に取り仕切り、意見を実現するまでのサポートを行う宇都宮市の職員の力も重要である。

日時：土日の2日間を想定、(年1回継続的に開催をする)

場所：バンバ市民広場

内容：宇都宮・栃木の食文化を楽しめる屋台の出店

日本の伝統的な遊びや現代の遊びを体験できるスペース

イートインの他に交流をメインの目的としたスペース

市民の相談を受け付けるスペース

日程は多くの人に訪問してもらう為に土日进行を想定する。バンバ広場を会場に選んだ理由として、JR宇都宮駅から徒歩でも行くことができるアクセスの良さ、フェスタmy宇都宮国際交流ひろばや3人制のバスケットボールである3X3(スリー・エックス・スリー)の会場として使用されていたことからイベント会場や人が多く集まる場所としての利用の理解を市民から得やすいことがあげられる。また、外国人への意識調査で「国籍問わず交流できる場所があったら何がしたいですか」という問に対し、「働きたい」「遊びたい」「日本の文化についての気持ちを共有したい」という回答が得られ、これらを実現するにはそれなりに規模が大きい場所を活用する必要があると考えた。中でもバンバ広場は、前にも述べたように3X3やフェスタmy宇都宮国際交流ひろばなどの大型イベント会場として活用されていることにより、在住外国人がやりたいと思っていることを実現するための事業を行う場所として、他の既存の交流場所と比較した時に適切であると考えた。

屋台では宇都宮・栃木グルメとして餃子、芋フライ、宇都宮焼きそば、佐野ラーメン、しもつかれ、ゆば、とちおとめスイーツ、レモン牛乳などを想定。その場で食べるもの以外に、お土産として持って帰ることができるものも準備する。会場内には座って食事ができるスペースを準備する。店での接客は、出展した店からの要請に応じて実行委員や運営ボランティアが補佐する。

日本の伝統的な遊びを体験できるスペースでは、こま、けん玉、折り紙など日本の伝承遊びを体験できる場所を設置する。子どもも大人も外国人も日本人も日本の文化に触れ、遊びながら交流をすることができる場所となっている。遊びスペースで人が溢れる混乱を防ぐために、1つの遊びで1回100円徴収し、最大15分間滞在ができることとする。人の数や流れを制限することで混乱を防止するだけでなく、スタッフが1人1人に遊び方やルールの説明を行うことができ、遊びながらの交流を促進する狙いがある。

交流をメインとしたスペースは、一緒にフェスに訪れた友達や家族で食事を楽しむことが目的ではなく、そのスペースにいる他の人と談笑したり情報交換をしたり仲良くなるための場所である。飲食も可能であるが、知らない人や国籍の違う人との会話をより楽しんでもらう為に、このスペースに入るときに紙とペンを配布する。このスペースから退出するためには、紙に2人以上のニックネームと国籍、好きな食べ物、最近ハマっていることをなど書き、出口のBOXに提出する必要がある。

市民の相談を受け付けるスペースは、宇都宮市の職員が担当をする。誰でも相談が可能であり、その場で解決をすることが難しい問題に対しては、市や民間・NPO 法人等が行っているサービスを紹介する。問題を解決することだけでなく、市民に情報を提供することも大きな目的である。

4.2 施策事業をする際の役割

施策事業の役割については、市民、事業者、宇都宮市それぞれの役割について分析した。

まず、市民の役割として、お客・スタッフとして参加し交流を楽しむこと、フェスに関する情報発信を SNS で行ってもらうこと、これらが考えられる。

事業者の役割として、商品の売り方や接客の仕方を外国人スタッフに教えること、フェスを通じて外国人と交流を深めること、フェスに関する情報発信を SNS で行ってもらうこと、これらが考えられる。

宇都宮市の役割として、フェスの告知や当日の様子を SNS 等で発信すること、イベントスタッフの募集呼びかけをすること、バンパ広場の確保などの開催準備、相談コーナーで市民からの相談を受け付けること、これらが考えられる。

4.3 施策事業に伴う効果

効果については、フェスにお客として参加した市民、事業者、宇都宮市、イベントスタッフそれぞれにとってのメリットを分析した。

まず、フェスにお客として参加した市民のメリットとしては、日本人や外国人との交流の機会が得られ多文化理解が深まること、日本の文化や栃木県の食文化に触れたことで宇都宮に対する愛着度が高まること、相談事業により生活に関する困りごとの解消が挙げられる。

事業者にとってのメリットとして、働くことを通じ外国人と交流の機会を得て多文化理解を深めることができること、お店を PR できることが挙げられる。

宇都宮市のメリットとしては、フェスを開催することにより観光客を誘致できること、フェスを通じて地元のお店が潤うこと、地元の食を多くの人に知ってもらうことで地元を PR できることが挙げられる。

イベントスタッフのメリットとして、企画・事業に携わることで宇都宮市の一員であることをより自覚できること、スタッフとして働くことによる外国人の雇用の生み出し、さらに様々な市民と関わることで情報交換や交流の機会を得ることが挙げられる。

4.4 問題点

フェスを実施するにあたり、考えられる問題点は大きく分けて4つある。

1つ目が、日本語が話せない外国人スタッフへの対応である。日本語が分からないことで、出店するお店の人が商品の売り方や接客の仕方を教えても上手く伝わらないことや、お客さんとのコミュニケーションが上手くいかないことが考えられる。コミュニケーションが上手くいかないことでミスが発生するなど、屋台の運営がスムーズにいかないといったことが起こる可能性があるため、日本語が分からない外国人スタッフにも屋台運営についてどのように説明すれば伝わるのか、対応の仕方を工夫する必要がある。

2つ目が、イベントのボランティアスタッフが必要な人数集まらないことである。フェスを成立させるのにイベントスタッフの数が足らなければお店を回すことも難しくなる。そのため、いかに情報発信を積極的に行うかが重要になる。また、今回のフェスが食と遊びを通じた多文化交流を目的としており、コミュニケーション取れるかが不安に思うことから抵抗を感じる人もいるかもしれない。そのため、外国人と日本人と一緒にフェスで働くことにハードルが高いと感じさせないための取り組みが必要になると考える。

3つ目が、出店するお店の人の外国人への理解である。一緒に屋台を運営する人の中には、外国人に対する偏見があるかもしれない。例えば、日本語が分からないのに接客できるのか、マナーを守れるのかなどがあると思う。このことから、いかに出店するお店の人に外国人も一緒に働くということを理解してもらうかが重要であり、外国人も宇都宮で働ける人材であるということを認識してもらうことが必要だと考える。

4つ目が、イベントの企画がスムーズに進むか分からないということである。今回私たちが提

案したフェスはこれまでに前例がないことにより実現可能な案が出るか分からないということ、多様な人たちが集まって成り立つ企画であることにより合意形成がうまくとれるかということに懸念がある。そのため、出た意見を企画に参加する人たちが納得できるよう上手くまとめ、実現可能な範囲で案を出していくといったことが求められる。

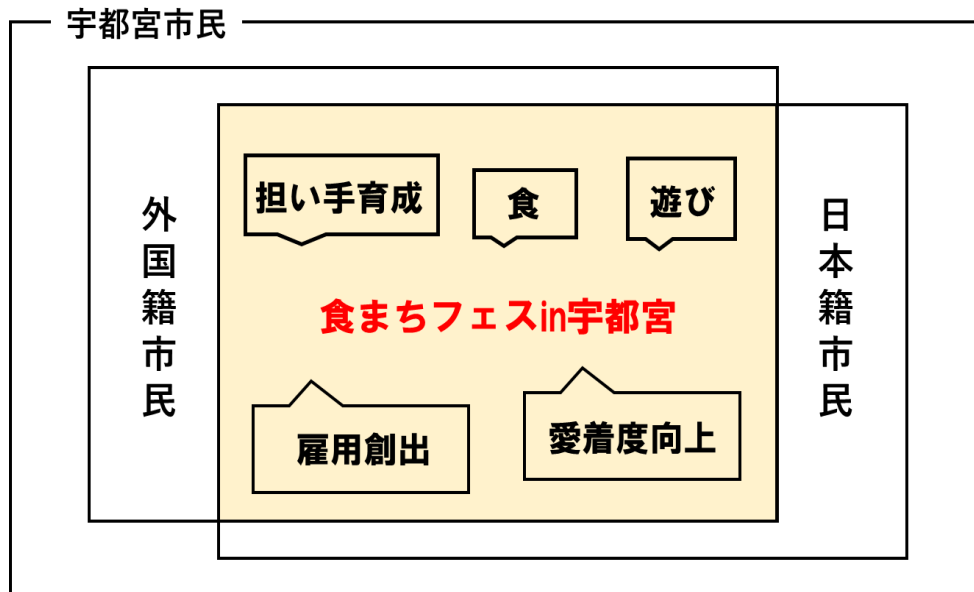


図2 食まちフェス in 宇都宮での交流イメージ 筆者作成

【参考文献】

- 1) 栃木県外国人住民数現況調査結果(令和3(2021)年12月31日現在)について
[☆⑨P1-2 記者発表\(概要\) \(tochigi.lg.jp\)](#) (閲覧日 2022年11月13日)
- 2) 宇都宮市 HP, 毎月人口(推計・住基・外国人登録人口)
[毎月人口\(推計・住基・外国人登録人口\) | 宇都宮市公式 Web サイト \(city.utsunomiya.tochigi.jp\)](#) (閲覧日 2022年11月13日)
- 3) 松山市 HP, 推計人口(毎月1日時点) (閲覧日 2022年11月13日)
[推計人口\(毎月1日時点\) 松山市公式ホームページ PC サイト \(city.matsuyama.ehime.jp\)](#)
- 4) 松山市 HP, 外国人人口 (閲覧日 2022年11月13日)
[外国人人口 松山市公式ホームページ PC サイト \(city.matsuyama.ehime.jp\)](#)
- 5) 愛媛県オープンデータカタログ, 国勢調査, 国籍別外国人数 (閲覧日 2022年11月13日)
[国勢調査 国籍別外国人数 - 愛媛県オープンデータ \(pref.ehime.jp\)](#)
- 6) 姫路市 HP, 毎月推計人口
[R41101.pdf \(himeji.lg.jp\)](#) (閲覧日 2022年11月13日)
- 7) 兵庫県 HP, 県内在留外国人数
[県内在留外国人市区町別人員数_R0312末 \(hyogo.lg.jp\)](#) (閲覧日 2022年11月13日)
- 8) 宇都宮市国際交流プラザ, 宇都宮市 HP, [宇都宮市国際交流プラザ | 宇都宮市公式 Web サイト \(city.utsunomiya.tochigi.jp\)](#), (閲覧日 2022年9月12日)
- 9) 宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター, 宇都宮大学国際学部 HP, [CMPS とは | 宇都宮大学国際学部附属多文化公共圏センター \(utsunomiya-u.ac.jp\)](#), (閲覧日 2022年9月12日)
- 10) バンバ広場の利用について, 宇都宮市 HP, [バンバひろば | 宇都宮市公式 Web サイト \(city.utsunomiya.tochigi.jp\)](#), (閲覧日 2022年11月5日)